

京丹後市立図書館

2025年度

おすすめの本

高学年
5・6年生向き

『すいめん』（アリス館）



高久 至/写真・文

水面は、空と海の境界線。空の世界から水面を通り抜けると、魚たちが暮らす海の世界。水面は海と空の色がまざりあい、くると色をかえ…。様々な表情をもつ水面と、そこに暮らす海の生き物たちを美しい写真で紹介しします。

『給食が教えてくれたこと「最高の献立」を作る、ぼくは学校栄養士』（くもん出版）

松丸 奨/著



給食が大嫌いだった少年時代、全国学校給食甲子園で優勝、給食の向こうに見えた世界…。「最高においしい」給食を目指して、さまざまな壁に直面しながらも挑戦を続ける栄養士が、自身の仕事内容や半生を綴る。

『黄金の村のゆず物語』（ポプラ社）

麻井 みよこ/著



わたしのゆずは、村人のやさしさでできるとんじやー。四国のチベットともいわれるほど自然豊かな徳島県木頭村(現在的那賀郡那賀町木頭)で、日本初のゆず栽培に挑んだ人びとを描いたノンフィクション。

『元気のゆずりあい 地下室にいた供血犬シロ』（フレーベル館）

別司 芳子/文



輸血治療が必要な病気やけがをしている犬に血を提供するために働く「供血犬」。動物病院の地下室で供血犬に出会い、幸せな暮らしをさせたいと願ったケリーさんの行動から、動物たちの幸せ、アニマルウェルフェアを考える。

『竹炭のふしぎな力 温暖化対策の可能性をさぐる』（小峰書店）

中根 周歩/著



たくさんの水をたくわえ、植物がそだつのを助ける竹炭。いま問題になっている地球温暖化の対策に、竹炭はどんな力を発揮するのでしょうか？ 砂漠の緑化なども視野に、竹炭を通じて環境問題を考えてみましょう。

『すごいグラウンドの育て方 阪神甲子園球場のひみつ』（Gakken）

金沢 健児/著



毎日、芝や土の表情がちがう。もしかして生きてる!? 阪神甲子園球場の外野の芝と内野の土を整備する阪神園芸のグラウンドキーパーが、グラウンドの育て方と自分たちの仕事について紹介する。

『はれ晴れ池をさがして』（ポプラ社）

宇佐美 牧子/作 結布/絵



いつだって弟のため、お母さんのため。わたしって、損してる？ 言葉がうまくしゃべれない弟のため、小学5年生の七美は「願いをかなえてくれる池」をさがすことにしますが…。がんばり屋な少女の成長物語。

『ピアノをきかせて』（講談社）

小俣 麦穂/著



姉の弾くピアノの音色が楽しく聞こえなくなってしまったことが気がかりでならない響音は、ふるさと文化祭の音楽劇に出場することになったのだが…。音楽のすばらしさ、家族のきずなや友情のたいせつさが伝わってくる音楽小説。

『竜の座卓』（偕成社）

朝比奈 蓉子/作 金沢 まりこ/絵



ぼくと、てつ兄は、脳梗塞で倒れて同居することになったじいちゃんと、夏休みに力を合わせて座卓を作るが…。初めて「老い」を見つめる兄弟の、とまどいと成長の物語。

『ぼくは満員電車で原爆を浴びた 11歳の少年が生きぬいたヒロシマ』（小学館）

米澤 鐵志/語り 由井 りょう子/文



1945年8月6日、広島に原爆が落とされた。爆心地から750メートルの満員電車の中で被爆し、奇跡的に生き残った当時11歳の著者が、8月6日の自身の体験と、その後に起こったことを語る。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『はじまりは一冊の本！』
濱野 京子/作 森川 泉/絵
(あかね書房)

『アゲイン』
あんず ゆき/作 丹下 京子/絵
(フレーベル館)

『母ぐま子ぐま』
椋 鳩十/作
村上 康成/絵
(理論社)



貸し出し中の本は予約できます。くわしくは職員におたずねください